学びのデザインシート（授業前）

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【福祉／社会福祉基礎】

１．対象（実施を想定する学校・生徒の実態の概要）

総合学科で、介護職員初任者研修修了を目指し、介護や福祉に関心を持つ生徒で構成されている。高齢者施設での実習、特別支援学校での交流や聴覚障害理解のための講習などを受講し、社会の幅広い福祉課題に目を向け、解決の手立てを考えようとする姿勢が育ちつつある。学習への取り組みは良いが、

福祉に関する基礎的な知識と生活体験の不足により、視野が狭いことが課題である。広範囲にわたる福祉分野を関連付けて考えられる力を身に付けさせたい。

２．単元名「児童家庭福祉と社会福祉サービス」（全６時間）

３．単元で育成すべき資質・能力の三つの柱につながる単元の評価規準

①知識・技能	生活を支える社会保障制度の概要と現状について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。
②思考・判断・表現	生活を支える社会保障制度の現状に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的根拠に基づいて創造的に簡潔している。
③主体的に学習に取り組む態度	社会保障制度を地域や生活と関連させて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組んでいる。

４．本時の目標

待機児童の問題の背景や、取り組みの動向を知り、子育てしやすい社会のための具体的な手立てについて考える。（待機児童の現状や民間による保育園設立、学校周辺の子育て支援に関するソーシャルアクションについては前時までの既習事項であり、本題を考える手立てとする。）

５．授業展開【 本時 ・ 単元 】

解決したい課題や問い
「保育園落ちた日本死ね！」と声が上がる、待機児童が多い現状を、どうすれば解決できるだろうか？

考えるための材料Ａ	**考えるための材料Ｂ**	**考えるための材料Ｃ**	**考えるための材料Ｄ**
表１：「都市部とそれ以外の地域の待機児童数」（厚生労働省、平成28年４月） 表２：「保育士有効求人倍率」（厚生労働省、平成27年12月25日） 表３：「待機児童の状況別・保育士と職種計の年収比較」（みずほ総合研究所）	資料１：「女性活躍に向けた日本企業の課題」 新聞記事：「私の視点（抜粋）」（朝日新聞、平成28年10月８日） （女性活躍の観点から育児休業法改正は慎重にすべき。）	表４：意識調査「あなたが働く理由」（転職・求人情報サイト『エン転職』） 資料２：「人口減少社会における労働力の確保」（みずほ総合研究所）	表５：「主要先進国の合計特殊出生率」（国立社会保障・人口問題研究所） 資料３：「人口問題解決の糸口となる、シラク三原則」（「GIベンチャー2015」、平成27年４月29日）
想定される活動	**想定される活動**	**想定される活動**	**想定される活動**
全国の待機児童数、特に待機児童は都市部に集中している現状を理解する。保育園を増やせばよいのではなく、保育士不足の対策を考えることが必要であることに気付く。	育児休業の延長について、子育て支援と女性のキャリアアップの両面から考える視点を持つ。育休の延長ではない方法で解決する必要があることを理解する。	働く理由として、収入の他に、自己成長の場、社会貢献、やりがいという視点があること、女性は労働力確保で期待されていることを知り、多面的に考えることができるようになる。	他の先進国と比較して、日本の出生率が低いまま推移していることをグラフから読み取る。 出生率が上昇に転じている国の生活環境や政策に関心を持つ。

対話と思考（対話を通した協働的な問題解決のプロセス）

対話の方法

【エキスパート活動】（12分）

考えるための材料Ａ～Ｄに分かれて資料を読み、課題について考えるための視点を持つ。対話により、理解を深める。

Ａ：「保育園があっても、保育士がいないと待機児童は受け入れられない」
Ｂ:「育児休業を延長すれば待機児童はいなくなるかもしれないけど､それだけで問題は解決しない」
Ｃ：「働きたい人が働けるために、保育園が必要」
Ｄ：「先進国も少子化が進んでるね」「フランスでは出生率が上がっているよ」

【ジグソー活動】（15分）

考えるための材料Ａ～Ｄのエキスパートが一人ずつ集まりグループとなり、課題に取り組む。それぞれの異なる視点を出し合いながら、社会の状況を多面的に捉え、子育てしやすい社会に向けた具体的な政策や福祉のあり方について考えを深める。対話を通して自己の考えを形成する。

「働きたい人は多いけど、保育士が少なくて受け入れる保育園も少ないのが問題だから、保育士を増やす対策を考える」
「日本死ねって言うけど、文句言うだけじゃなく個人としても何か行動すべきじゃないかな」
「祖父母と同居して子どもを見てもらえれば解決できそう」

【クロストーク活動】（発表10分）

問いに対する答えをグループごとに発表する。他のグループの意見に触れることで、自己の考えが深まり、新しいアイディアが生まれる。

学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

- 日本は待機児童を国の問題として考えて、社会の人々すべてが幸せに暮らすために対策を取る必要がある。フランスのように、今ある施設を保育園として利用したり、高齢者にも関わってもらうようにする。
- 待機児童の多い都市部に重点的に保育園を作り、保育士の給料など待遇を改善させる。
- 育児休業を延長することは、女性のキャリアアップの面では良いこととは言えないので、それよりは子どもを安心して預けて働けるように支援する。
- これから少子高齢化が進むので、高齢者サロンと子育てサロンを一緒にできたら、お互いに良い影響があると思う。将来子どもができた時にはサービスを利用したいので、市や町に要望を伝えることも必要だと思う。